

July 22, 1997：北海道瀬戸瀬尾温泉

オオイチモンジとの初めての出会いを果たした瀬戸瀬温泉では、泊まったホテルの裏手から進んだ林道沿いで、新鮮なコヒオドシが群れ飛ぶ一方で、くたびれたホソバヒョウモンも路傍のヨツバヒヨドリやアカツメクサに多くの個体をみた。散策中の路傍でヒメジョオンを訪れて吸蜜しているジョウザンシジミに出会ったのにカメラを持っていなかったのが悔やまれたが、帰りのバスを待つわずかの時間に、ホテルの玄関先を飛ぶ青いシジミチョウをネットインしたら、これまた全く予期していなかったゴマシジミ。短い時間に 2 個体を得たが、映像記録をとるタイミングはなく、その後このチョウと出会う機会はなく過ぎて行った。



Aug. 2, 2015：岡山の高原草地

ゴマシジミは中国・九州産亜種が絶滅危惧 I B 類選定となって、季刊の「ゆずりは」などが中国地方の詳細な産地紹介の記事を載せたりするため、珍しいチョウばかりを集めたがるマニアの標的になってしまう困った状況だが、蝶友の K さんからその撮影に行かないかとの誘いがあって、実に 28 年ぶりの再会を求めて深夜に高砂まで車で迎えに来てもらう。朝日が昇る前から朝露でぬれる深い草むらで眠っているはずのゴマシジミを探すのだが見つからず。同行の T さんがよく知る生息地へと移動し、登山靴内までぐしょぬれで気持ちの良くない状態のまま、どこまでも草深い道なき草原をかきわけてゴマシジミを探す。朝日が届き始める頃、ついに待望のゴマシジミが飛ぶ。まだ動きがにぶく、すぐに近くの草葉上にとまってくれるので、ゆっ

くりと撮影。T さんも近くでみつけた個体に狙いを定めて開翅のタイミングを待ち続けるが、その瞬間はおとずれることなく飛んでしまう。そ



の姿を見失わないよう、肩口まで茂る草をかきわけながらビデオカメラで飛翔について行き、かろうじて翅表のブルーを記録できたが、あらためてきれいな開翅シーンを撮ってみたいものだ。

